

「確かな学力」を育むためのシラバスの活用・改善にむけたガイドブック

(H17.3 福岡県教育センター研究紀要 No.152)

1. シラバスの効果 → 4つの側面がある…

① 生徒にとって

- シラバスにより、授業の概略がわかり、学習の仕方や留意点を知ることができ、より効果的に授業を受けることができる。
- 興味関心、進路希望に応じて履修科目を選択するための重要な情報となる。
- 自主的に学習計画及び学習目標を立てる際の資料として活用できる。

② 教師にとって

- 指導内容の精選につながり、1～3年間を見通した計画・体系的指導が期待できる。
- 教科内・教科間の教師の連携が深まる。
- 授業の質・指導方法の改善につながり、教師の指導力の向上が期待できる。
- シラバスの改善を通じて、授業の見直しや教師間の共通理解が進み、教師の意識向上に役立つ。

③ 学校にとって

- 中学生・中学校に、シラバスを通じて学校の教育目標や各教科の授業方針など、教育活動に関する情報提供を行うことができる。
- 生徒・保護者・地域に対する説明責任を果たし、教育活動に対する理解を得ることができる。

④ 保護者・地域にとって

- 学校の教育活動が分かり、学校への信頼感が高まる。
- 中学生・中学校の進路資料として役立つ。

2. シラバスの記載事項 → 全国のシラバスの例から…

① 基本項目

- 教科・科目名 ○使用教科書・副教材等 ○履修学年 ○履修形態 ○履修単位
- 教科・科目目標 ○学習内容（年間計画） ○学習方法 ○評価方法

② 特色ある項目（自校の特色に応じて取り入れる項目の例）

- 学習の意義が分かる項目
 - ・学校の教育目標 ・重点目標 ・学科目標
- 評価をより詳しくする項目
 - ・評価基準（到達目標） ・チェック欄 ・評定尺度欄 ・自由記述欄
 - ・数値目標 ・授業担当者記入欄
- 学習計画を立てる際に役立つ項目
 - ・年間行事 ・自己学習目標 ・学習系統図 ・定期考査範囲
 - ・学習の記録
- 学習方法がより詳しく分かる項目
 - ・ノートの作り方 ・習熟度別学習方法 ・授業担当者からのアドバイス
 - ・先輩からのアドバイス
- 進路に関する項目
 - ・進路情報 ・資格取得情報 ・進路希望記入欄

○ その他

- ・教育課程表
- ・シラバスの見方と活用方法
- ・補充及び発展学習
- ・学習形態

3. シラバスの記載事項 → 記載事項から期待される具体的効果とは…

生徒の視点

① 教科・科目の目標が明確に示されていると…

- ・ 何のために学ぶのかが理解でき、授業に臨む姿勢が積極的になります
- ・ 教科・科目の求めている資質・能力が分かります

② 学習目標が明確に示されていると…

- ・ どのような力を身につけなければならないかが、理解できます
- ・ 具体的な到達地点（ゴール）が分かります

③ 学習内容が明確に示されていると…（本校では、授業計画の部分）

- ・ これから何を学ぶかが分かり、先の見通しがもてます
- ・ 学習計画を立てやすくなります

④ 教材や授業の心構えが示されていると…

- ・ 事前に何を準備すべきかが分かります
- ・ どのような予習をして授業に臨めばよいかが分かります

⑤ 学習方法が示されていると…

- ・ ノートの取り方や資料の活用の仕方がわかり、効果的に授業を受けることができます
- ・ 自学自習の態度が身に付きます

⑥ 教科・科目の系統性が示されていると…

- ・ 興味・関心、進路に応じた科目の選択ができます
- ・ 自分の進路と結びつけて学習に取り組むことができます

⑦ 評価規準（到達目標）が観点別に示されていると…

- ・ 到達すべき姿が具体的にイメージできるようになります
- ・ 自分の学びがどのように評価されたかが分かります

⑧ 自己評価欄が設けられていると…

- ・ 自分の理解度、到達度が確認でき、達成感を味わうことができます
- ・ 自分の努力の跡を振り返ることができます
- ・ 自分自身の弱点が分かり、今後の学習にどのように取り組めばよいかがわかります

⑨ 教師や卒業生からのアドバイスがあると…

- ・ 体験に基づくアドバイスに共感でき、学習への励みになります
- ・ より具体的な情報を得ることができ、学習意欲が高まります。

⑩ 図や表、イラストなどで示されていると…

- ・ 視覚に訴えられ、興味を持つことができます
- ・ 内容を理解し易くなり、シラバスを活用しようとする意欲が湧きます

⑪ 活用場面が示されると…

- ・ 実際に見たり調べたりしてシラバスを積極的に活用する態度が身に付きます
- ・ 活用しながら、学び方を身につけることができます

教師の視点

- ① シラバス作成に組織的に取り組むと…
 - ・ 教師全員がシラバス作成に関わることになり、学校の教育目標を十分踏まえた上で、シラバスを検討することにより様々な視点から自校の教育活動を捉えることができます
 - ・ すべての教師が各学年・学科の目標、各教科の具体的目標・方策を理解することができます
 - ・ 他教科との情報交換が円滑になり、より質の高いシラバスの作成・改善ができます
- ② 授業でシラバスを活用すると…
 - ・ 指導方法や評価方法の改善につながり、教師の指導力向上に期待できます
 - ・ 指導内容の精選につながり、計画的・体系的な指導をすることができます
 - ・ 生徒が学習計画を立てたり、個々の努力目標を設定したりすることができ、教師は、個に応じた指導が展開しやすくなります
- ③ シラバスをもとに授業を評価すると…
 - ・ すべての教師が、生徒の学習に関する情報を共有することができ、その課題解決に向けた授業改善の方向性がより明らかになります
 - ・ 年度途中でも、単元ごとに授業を自己点検・自己評価し、教科内で検討することで、より効果的な指導方法へと改善することができます
- ④ 到達目標を明確にすると…
 - ・ 求める生徒の姿を常にイメージしながら、意欲的に責任を持って授業を行うことができます
 - ・ 到達度を分析することで、シラバスの改善に生かすことができます
- ⑤ 学習内容を明確にすると…
 - ・ 教師は、見通しをもった授業を展開できます
 - ・ 生徒の学習意欲を喚起して計画的な学習を支援することができます
 - ・ 他教科の教師と学習内容が共有でき、教科間連携を図ることができます
- ⑥ 事前の準備物や授業に臨む姿勢を示すと…
 - ・ 授業への期待感を高めることができます
 - ・ 授業の導入をスムーズに行うことができます
- ⑦ 学習方法や授業の進め方を示すと…
 - ・ 生徒の学習習慣の確立を促すことができます
 - ・ 生徒の学習の状況が把握でき、授業を効果的に進めることができます
- ⑧ 評価規準（到達目標）を観点別に示すと…
 - ・ 知識や技能だけを評価するのではなく、生徒を多面的に捉えることができ、確かな学力を育成できます
 - ・ 評価の信頼性を高めることができます
- ⑨ 生徒の自己評価欄を設けると…
 - ・ 生徒が理解できないところや、不足しているところが明確になり、個に応じた指導を行うことができます
 - ・ 自己評価欄の結果を確認テストや問題作成に生かすことができます

4. シラバスの改善の視点 → 本校のシラバスの改善に役立たせるには…

- ① 学校の教育目標に照らして、各教科・科目や各学年の目標を具体的な内容や生徒の姿で表していますか。
 - ・ 「英検2級取得」等具体的な内容で示します
 - ・ 「方程式と不等式に2次関数が活用できる」等生徒の姿で表します
- ② 学習内容に、評価の観点を明らかにしていますか。
 - ・ 学習内容がどのように評価されるかが明確になることによって、到達目標が理解でき「学ぶ意欲」の向上が期待できます
 - ・ 評価の信頼性が高まります
- ③ 様式や記載項目は、共通部分を設けながらも、生徒の実態に応じ、また教科の特性が出せるように工夫していますか。
 - ・ 様式や記載事項に柔軟性を持たせると教科・科目の特性を生かせます。
- ④ 生徒がシラバスを活用することで、学習を「見通す」「確認する」「振り返る」姿勢が身に付いていますか。
 - ・ 生徒は、学年・学期や各単元のはじめにシラバスを使って、学習計画を立てたり、個人の目標を設定したりします
 - ・ 生徒は、学習方法、提出物、定期考査などの試験範囲等を確認します
 - ・ 生徒は、チェック欄や自由記述欄を活用し、学習内容を振り返ります